

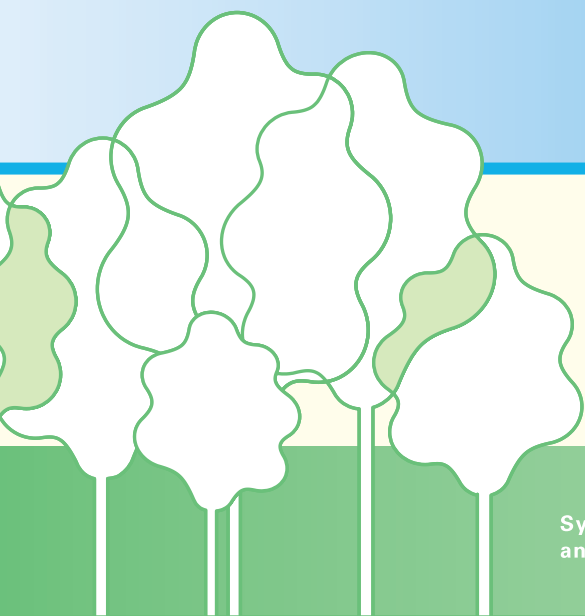
EKK GROUP CSR REPORT 2008

EKKグループ CSR報告書 2008

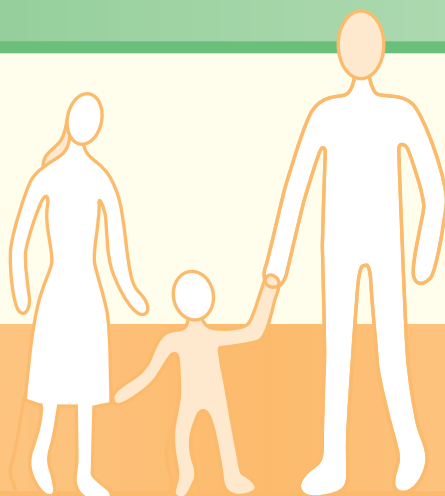
Contribution to
the Field of every Industry



Symbiosis with the Earth
and the Environment



Good Relations with all of
our Stakeholders



C O N T E N T S

編集方針	2
トップメッセージ	3
会社概要	4
EKK製品が環境負荷低減のためにできること	6
こんなところにEKK製品	8
経営方針	10
EKKのマネジメント	11
リスクマネジメント	11
コーポレートガバナンス	12
中期経営計画	14

環 境 報 告	
環境マネジメントシステム	15
環境目標・実績	17
事業活動と環境負荷	18
省エネルギーの取り組み	19
廃棄物削減の取り組み	20
汚染防止・化学物質管理	21

社 会 性 報 告	
お客さま、お取引先さまとともに	23
従業員とともに	24
社会・地域とともに	27

デ ー タ 編	
環境投資・安全衛生投資	29
サイトレポート	30
編集後記	31

編集方針
本CSR報告書は、環境活動報告、安全衛生活動報告に加え、社会的側面に関する記載の充実に努めました。
本報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン（2007年版）」およびGRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン 第3版」を参考に作成しました。

報告対象期間
2007年度（2007年4月1日から2008年3月31日）の実績が中心ですが、2008年度の取り組みを一部含んでおります。

報告対象組織
イーグル工業株式会社、イーグルブルグマンジャパン株式会社、コベルコイーグル・マリンエンジニアリング株式会社、岡山イーグル株式会社、島根イーグル株式会社、北海道イーグル株式会社、イーグルサービス株式会社、リグナムバイター株式会社、株式会社EKKアグリサイエンス、株式会社バルコム

報告書発行日：2008年10月25日

CSR報告書に関するお問い合わせ
イーグル工業株式会社 業務本部 総務部 CSR課
TEL 03-3432-3892 FAX 03-3432-5448
〒105-8587 東京都港区芝大門1-12-15
URL <http://www.ekk.co.jp/>

「より良い会社」を常に追求しながら、
「より良い社会」の実現に貢献していきます。

EKKグループの中核企業であるイーグル工業株式会社は、1964年東京オリンピックが開催された年に東証一部上場企業であるNOK株式会社と米国シーロール社との合併企業として設立され、その後、日本をはじめ世界40カ国に子会社・関連会社90数社を有する東証一部上場のグローバル・アンド・パブリックカンパニーに成長してまいりました。主力製品である各種ポンプ等に使われる軸封装置メカニカルシールをはじめ関連機器を世界中の約4,000名の従業員の手により文字通り世界中で作り世界中に販売しています。

直近の2008年3月期においては売上874億円、経常利益は83億円と6期連続最高益を記録しました。

このEKKグループが当面目指しているのは、顧客満足度（Customer Satisfaction）を高め、世界中のあらゆる産業における風水力製品の軸封装置に関するソリューション・プロバイダー（Solution Provider）として無くてはならぬ存在価値を持つ中堅優良企業、グローバル・インテグラル・カンパニー（Global Integral Company）たることであります。それを確実にするための経営姿勢・哲学や具現化させるための各種活動について以下に触れます。

EKKグループはNOKグループの主力企業の一つでもありますが、そのNOKグループの哲学、「企業は株主、従業員及び地域社会三者の共有物である」と言う考え方を全面的に経営の端々にまで展開しています。すなわち、働く従業員の満足度向上（Employee Satisfaction）を図るために、あるいは地域社会に受け入れられるために、各種法令の遵守を何よりも優先するコンプライアンス（Compliance）の徹底、自然保護の立場での環境経営の展開、あるいは環境保全への積極的貢献、労働安全衛生面に対する徹底した管理、製品の品質を確保するための各種品質活動の充実などであり、それらはISO14000、OHSAS18000、ISO9000、あるいはISO/TS16949の運用実施に表れています。

さらには、イーグル工業は自動車・建設機械・船用・エアロスペース以外の一般産業分野においては、ドイツに本社を置くメ

カニカルシールメーカーのブルグマン社とアライアンスを組み、お互いの存在を尊重しつつ、かつ補完し合いながら世界戦略を展開していますが、これらの思想はEBIアライアンス（Eagle Burgmann Industries Alliance）にも展開されています。

それらの考え方の徹底と実践が、地域社会において良き企業市民として共生し、従業員の会社への誇りと仕事に対する真摯な姿勢を育み、より質の高い仕事を顧客へ提供し続けることにより信頼を確保し、企業の最大の目標である適正利益の確保に繋がってきます。つまり私達はあくまで企業の長期的利益の確保を図ることを旨とし、その長期的利益の犠牲の元に短期的利益を追求することは絶対に行わない。いくら儲かるからといって、環境を破壊する恐れがあったり、将来とも品質の確保や供給責任を果たせない可能性のある製品やサービスの提供はしない。そして、経営者が代わろうとも、従業員が移り変わっていかうとも、いつの時代でも、いつまでも、EKKグループは、全てのステークホルダーが誇りを持てる、また地域社会からも愛される“良い会社”であり続けなければなりません。

“良い会社”であり続ける、これがEKKグループの最終的に目指している姿であり、また“より良き社会”の実現のために貢献していくことが出来る、これがEKKグループの願いであります。



イーグル工業株式会社
代表取締役社長

鶴 鉄二

会社概要

1964年の設立以来、産業の基礎を支える製品づくりを中心に事業活動を進めています。

商号 ――― イーグル工業株式会社

EAGLE INDUSTRY CO.,LTD.

本社所在地 ― 〒105-8587 東京都港区芝大門一丁目12番15号

電話 03 (3438) 2291

http://www.ekk.co.jp/

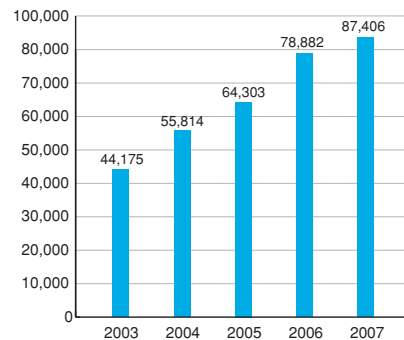
事業内容 ――― 汎用・工業用各種メカニカルシール、ガスシール、特殊シール、ペローズ応用製品、船用製品、ダイヤフラムカップリング、特殊バルブ等の製造販売

資本金 ――― 10,490,981,500円

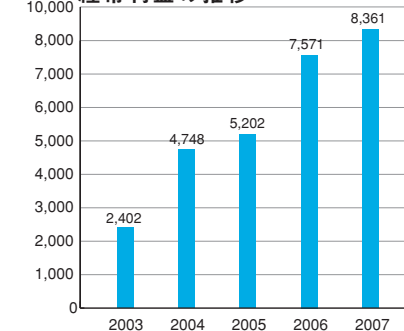
従業員数 ――― 716名（企業集団全体の従業員数は3,634名）

（2008年3月31日現在）

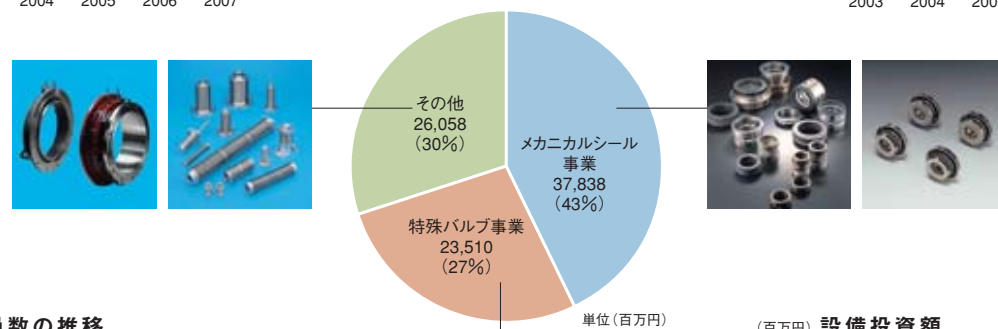
（百万円） 売上高の推移



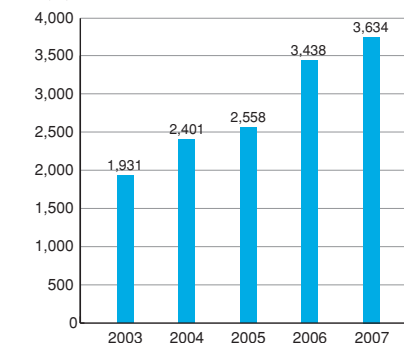
（百万円） 経常利益の推移



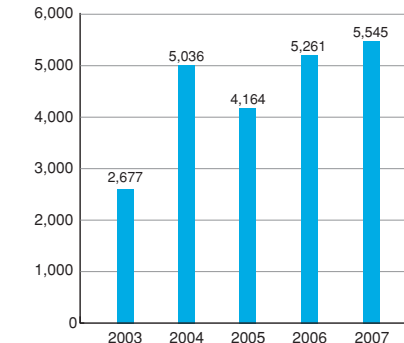
事業別売上構成比（連結）



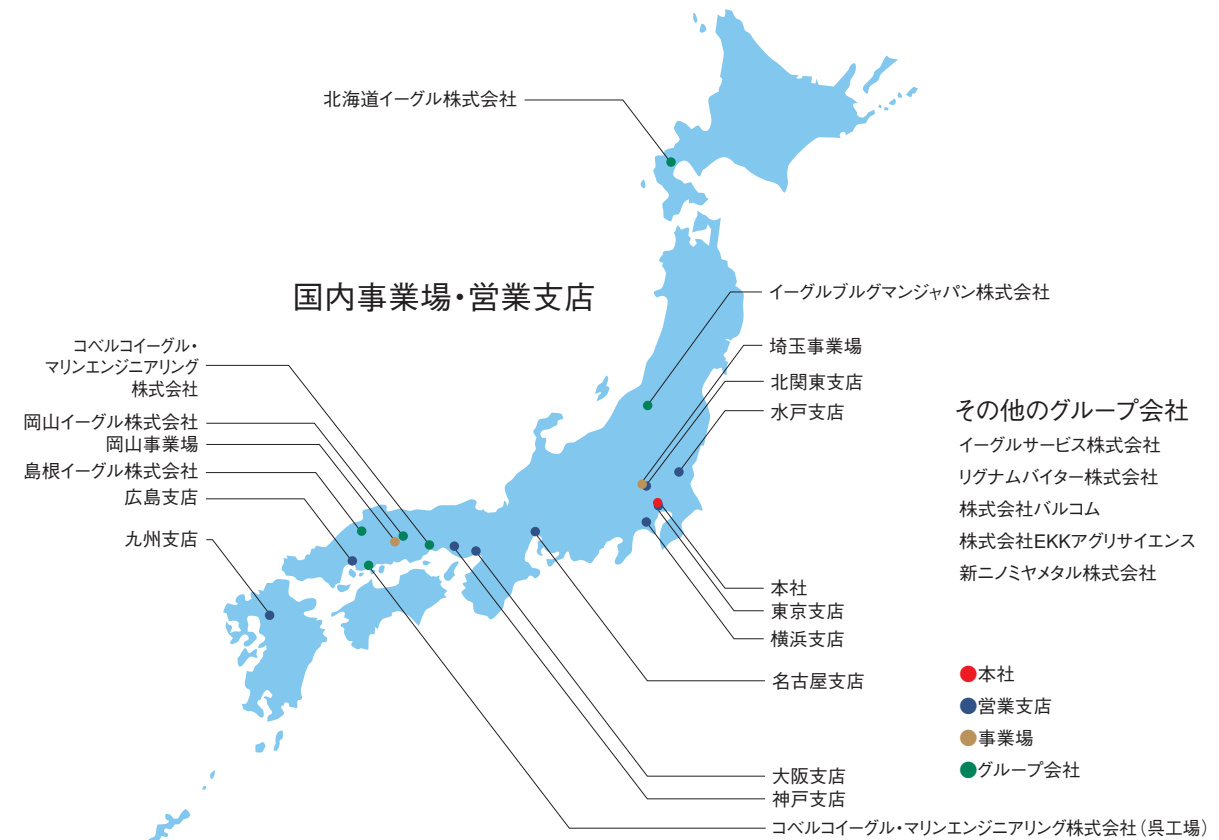
（人） 従業員数の推移



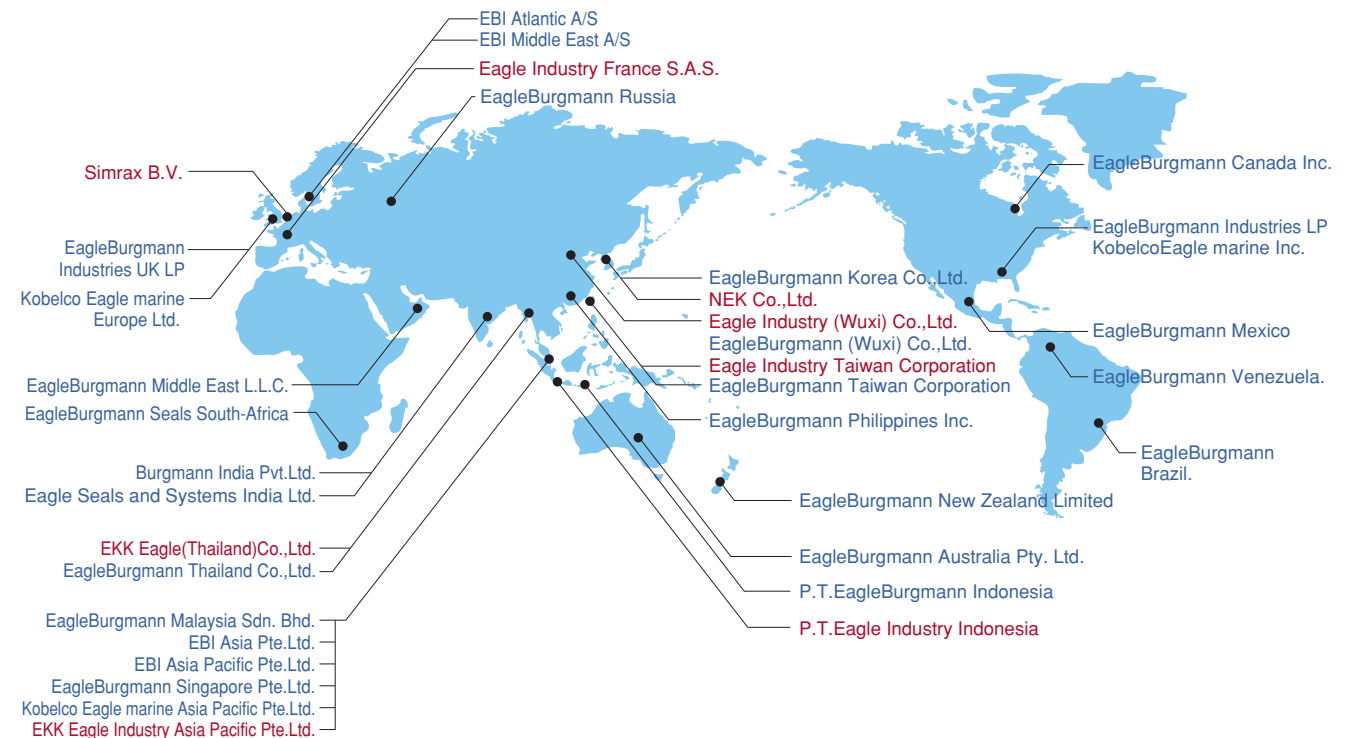
（百万円） 設備投資額



国内事業場・営業支店およびグループ会社



海外グループ会社



EKK製品が環境負荷低減のためにできること。

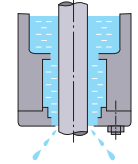
教えて！
高森さん

イーグル工業の主要製品の一つに、メカニカルシールがあります。これがなんと、国産自動車に搭載されているエンジンのウォーターポンプや、家庭用ポンプにおいて95%のシェアを占めているばかりか、ほかのさまざまな分野でも強い信頼を得ています。その秘密は、回転機器の働きをしっかりとサポートし、しかも内部の流体を漏らさない高度な技術力。くらしや産業を支え、おまけに環境にもやさしい、すぐれものなのです。

Q メカニカルシールって何ですか？

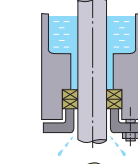
はいっ！ 私、イーグル工業株式会社環境管理部の高森がわかりやすく解説します。
メカニカルシールとは回転機器の漏れ止めのことです。一言に回転機器の漏れ止めと言ってもピンときませんね。どうして「シール（密封するが語源）」するのか、簡単に説明してみます。下の図は大きな釜の中を表したもので、中心に回転する軸があり、その釜の中には液体が入っているとします。

シールなしの場合



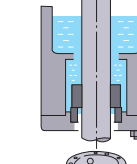
●釜の中の液体が、
どんどん漏れます。

グランドパッキン
の場合



●軸が磨耗します。
●磨耗を防ぐためには潤滑が必要ですが、それによって漏れが発生します。

メカニカルシール
の場合



●軸は磨耗しません。
●漏れも防止できます。

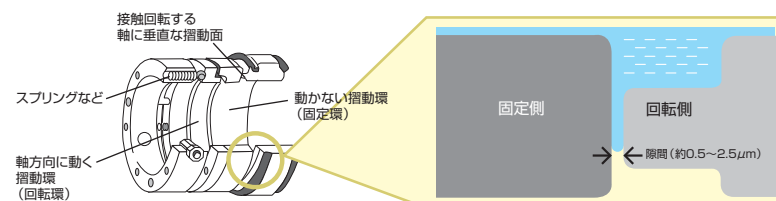
ここで、我々メカニカルシール業界は
液体の漏れを制限することを「シール」と表現します。
釜の中の漏れ出した液体が地球を汚染する油や溶剤だとしたら、
どうなるでしょうか…？

メカニカルシールは大きな地球を救う小さな環境製品です！

当社ホームページでも
ご紹介しています。
<http://www.ekk.co.jp/mechanical/index.html>

Q シール性能に優れたメカニカルシールは ではどうやってシール（漏れを制限する）するのでしょうか？

回転側と固定側の間にごくわずかな隙間でシール（漏れを制限する）しています。
このわずかな隙間（漏れず、焼付かず）が弊社の技術力なのです。メカニカルシールが精密部品と言われるゆえんであり、生命なのです。



環境
配慮型
製品

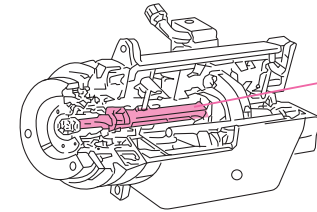
「環境方針」にも掲げているように、当社シール関連製品は、それ自体に公害防止・省エネルギー等の機能が求められています。EKKグループはその要求に応え、世界中のあらゆる応用分野で環境保護に寄与しています。また、シール製品に限らず、製造・廃棄も含め、より環境負荷の小さい製品の開発を続けています。ここでは、環境保護に寄与するEKK製品の代表的例を紹介いたします。

フロンガスの排出をなくし、オゾン層破壊を防ぐ「リップシール」。

カーエアコンの軸シールとして冷媒、冷凍機油を密封し、大気中へのフロンガス排出をなくします。従来は、車1台当たり「約20g/年」のフロンを排出していましたが、このリップシールを採用することで排出量を4分の1に削減しました。EKKのリップシールは、年間で約1,000トン*ものフロン排出を抑えています。

*世界のコンプレッサー生産台数を「7,000万台/年」として概算しています。

リップシールの働き



カーエアコンプレッサーのガス圧縮ポンプ回転軸に取り付けて、コンプレッサー内部の圧縮室と大気側とを遮断（シール）します。

開発者の声

岡山事業所 シール設計部
副部長 千葉 啓一

メカニカルシールからリップシールへの切り替えにより、フロンガスの排出を大幅に低減し、オゾン層破壊防止に貢献してきました。

現在は、地球温暖化防止のため、フロンガス漏れをさらに低減できるよう検討を進めるとともに、地球温暖化係数の低い新冷媒用のリップシールや、CO₂ガスに対応するシールの開発を進めています。



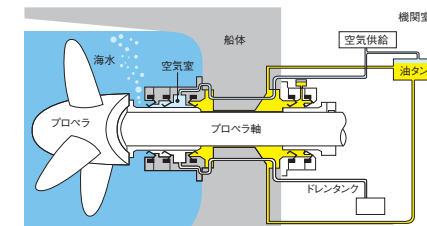
海を汚さず、海洋生物にもやさしい「エアシール」「船尾管潤滑剤ST-77」。

船のエンジンに使われている潤滑油が船外に洩れないようにすることは、環境上きわめて重要です。しかし、プロペラ軸が回転すると、プロペラ軸とシールリングとがこすれ、その間に油膜ができて微妙な油漏れが生じます。また、航海中、嵐にあったような場合には、軸の大きな振動によって油漏れが生じることがあります。この漏れを限りなくゼロにしたのがエアシールです。シール装置の中に、海水と潤滑油を遮断する空気室を作り、船外の水圧よりも高压の空気を供給することにより、船外からの海水進入と潤滑油流出をともに防ぎます。

また、「船尾管用生分解性潤滑剤ST-77」は、事故などで海洋に流出

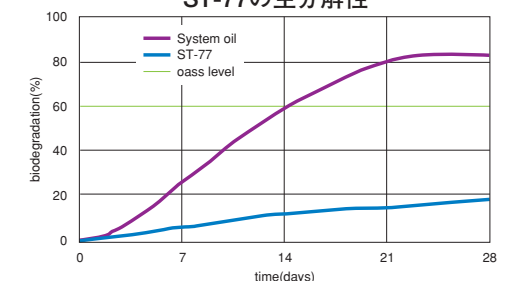
した際、環境への負荷が小さい潤滑剤です。カーボンや水素などからできている潤滑油は、海中のバクテリアにより、ある程度は水と炭酸ガスに分解されます（生分解）。しかし、ST-77はこの分解率を従来品の4倍以上に高めた新しい潤滑剤です。化粧品やリップクリームに使われる無害な材料をベースに作られているため、魚や海洋生物に影響を与えるような毒性がなく、さらに油のように水と分離せず、水に溶けるという特徴を持っています。このST-77専用、シールリングのゴムも劣化しにくい独自のフッ素系ゴム材を開発しました。

エアシールの仕組み



ST-77

ST-77の生分解性

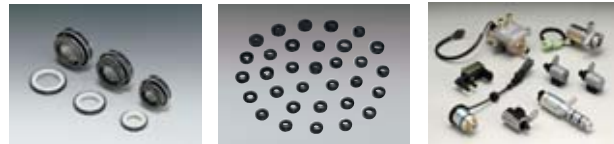


こんなところにEKK製品

1964年の設立以来、産業の基礎を支える製品づくりを中心に事業活動を進めています。

自動車

自動車のウォーターポンプ用メカニカルシール、カーエアコン用リップシールやコントロールバルブ、エンジン・トランスミッション・足回り・燃料装置用ソレノイドバルブなど、多彩な製品があります。



二輪車

二輪車等の排ガス対策用リードバルブをはじめ、低速から高速までの高出力仕様・2サイクルエンジン用フラットタイプリードバルブなどをお届けしています。



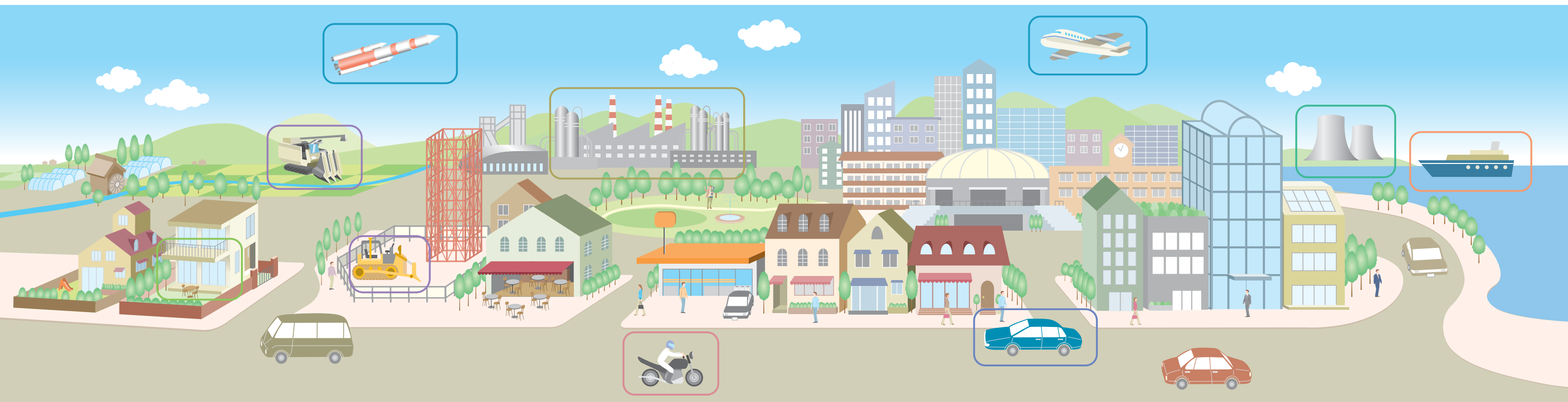
発電所

原子力発電所で原子炉の一次系冷却材ポンプに使われる軸シールや、原子炉運転中の万一の事故の際に主蒸気ラインを隔離する主蒸気隔離弁などを納入し、最高レベルの安全性能で信頼に応えています。



船舶

船舶のプロペラシャフトに装着され、潤滑油の船外漏洩や、船内への海水進入を防ぐスタンチュープシールのほか、優れた耐久性を誇るスタンチュープベアリング等により、安全で地球環境にも優しい航行に貢献しています。



家庭用製品

家庭の井戸水汲み上げポンプなどに使用されるメカニカルシールとして、機器構造に応じて選定していただける豊富なラインナップを取り揃えています。当社オリジナルのロングセラー製品です。



建設機械

ショベルカーやブルドーザなどの掘削機械等や、農業用機器等の足回りに使われるフローティングシールにより、さまざまな建設・農業事業を支えています。



産業機械

生産設備機械・石油化学プラントなどあらゆる設備機械のシール装置部やポンプ類などに使用されている各種メカニカルシールをはじめ、磁性流体シールや溶接金属ペロース、変位センサー、圧力計測機器類を製造しています。



航空・宇宙

航空機やロケットのエンジンメインシャフト、エンジンギアボックス、ターボポンプなどに使用される各種シールを開発製造しています。「高温・高圧」という過酷な使用条件に耐える製品により、高い評価を得ています。



経営方針

すべてのステークホルダーに誇りを持っていただける企業を目指します。

経営の基本方針

当社の経営に対する基本的考え方は「企業は株主、従業員、地域社会の3者の共有物であり、これにお客様、サプライヤー、金融機関等を加えたいわゆるステークホルダーのすべてが常に誇りを持てる会社となる」ということであります。そのために遵法精神に則り、社会に貢献する商品を通して高い収益力を持った強い会社となるよう、不断の企業活動を展開しています。

EKKのCSR経営



EKKのマネジメント

従業員一人ひとりが企業倫理の醸成と実践に努めています。

リスクマネジメント

事業活動に潜むリスクを認知し、その顕在化を防止し、クライシス（緊急事態）発生時の対応を定めるため、EKKは2003年に「リスクマネジメント方針」および「リスクマネジメント規程」を制定しました。各本部・事業部および各関係会社は、「リスクマネジメント方針」

に基づき、企業倫理、法令遵守の徹底およびリスクマネジメントの推進に努めるとともに、これらの活動を通じてより高い企業倫理の醸成を図っています。

リスクマネジメント方針

基本理念

イーグル工業株式会社及びそのグループ会社の経営に対する基本的な考え方は、「企業は株主・従業員・地域社会の三者の共有物であり、これにお客様、サプライヤー、金融機関等を加えた、いわゆるステークホルダー（利害関係者）の全てが常に誇りを持てる会社」となることです。そのため社会に貢献する商品を通じ高い収益力を持った強い会社となるよう不断の企業活動を展開しています。

この展開に当たってはコンプライアンス（遵法精神）を原点として、リスクマネジメントシステムを確立し、企業としての社会的責任を果たします。

行動指針

1. 良い商品とサービスを提供することにより社会的評価を高める。
2. リスクを明らかにして、社員の安全・健康並びに経営資源の保全を図る。
3. 危機が発生した場合には、被害を最小に抑え迅速な回復を図る。
4. 外部関係者のリスクを明らかにして、その安全・健康並びに利益を損なわないようにする。
5. リスクが顕在化した場合には、外部関係者に対して責任ある行動をとる。
6. リスクに関連する社会的要請（法令・社会的価値観等の変化）をリスクマネジメントシステムに反映する。

2006年4月1日

イーグル工業株式会社
代表取締役社長

鶴 鉄二

リスクマネジメントの運用については、以下の組織を置いています。

リスクマネジメント委員会	事業活動に潜在するリスクを抽出・評価し、それらを組織的認識のもと、予防策の推進を図ります。
クライシス（緊急事態）対策本部	クライシスが発生した場合、総力を挙げて緊急に状況の早期把握に努めるとともに、迅速的確な状況判断のもとに、初動体制を確立し、被害の拡大防止を図ります。
倫理委員会	会社の事業運営に伴って発生する倫理上の問題に関して、法令、業界のルール、社会規範に照らし、誠実透明かつ適正なる倫理に即した行動を保証する体制を整えます。また、会社が市場からの信任と評価を得られるような諸施策、および従業員の労働環境を倫理という視点から改善するような諸施策を推進します。
倫理相談窓口	従業員からの倫理疑義事項（法令、業界のルール、社会規範に照らした疑問事項）の解決を図り、適切な企業行動の維持を図ります。 この相談窓口は、社外からの強制的な摘発、従業員等内部者による外部機関への告発、あるいは外部からの批判によってではなく、会社組織自らの力で、従業員の協力を得ながら、不公正な商慣習、違法行為、問題ある取引慣行などを事前に発見し、主体的に解決する「自浄制度」です。

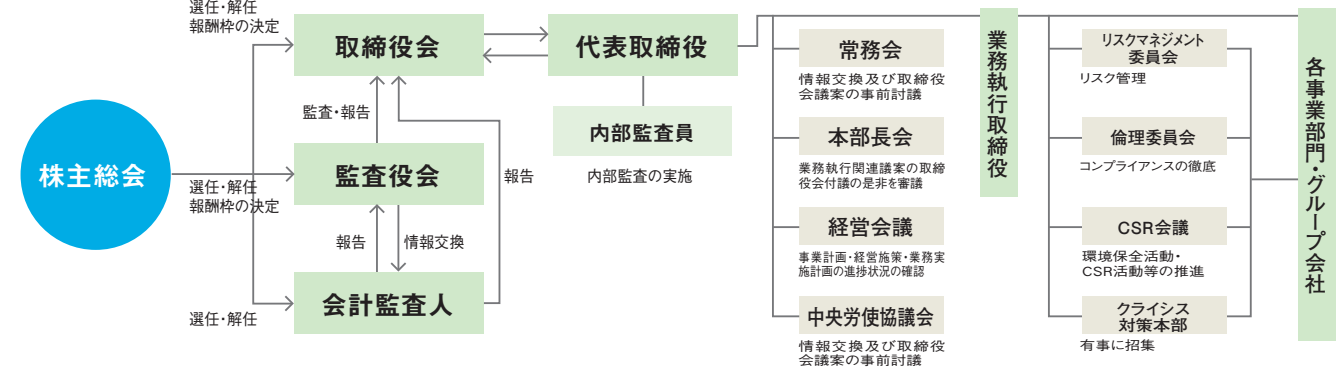
コーポレートガバナンス

当社は経営の意思決定がただちに実行に移されるよう常に組織の見直しを行ない、同時に大幅な権限委譲と責任の明確化を図り、最大の成果を達成しうる体制を整えてまいります。特に経営会議をはじめとした各種会議にはその重要性に応じ監査役、労働組合の参加があり経営の透明性を保っております。さらに経営トップによる本部・事業部診断は経営層レベルにおける問題点の把握と共通

認識を図る体制になっています。

また企業活動の多様化、グローバル化等に伴い企業としてのリスク管理の重要性が増しておりますので、リスクマネジメント委員会を設置し有事への備えをいたしております。そのほか全従業員を対象とした行動規範を策定しモラルの向上を図っております。

コーポレートガバナンス体制



事業活動における倫理上の行動指針

1. 倫理の心

会社で働く人々は、誇りをもって仕事に取り組みたいと願っています。ほとんどの人々は、不正なことをやりながら生活したいとは思っていないものです。

自分達の職場で不正な取引や良心に反するような慣習があれば、それに疑問を差し、改善したいと考えています。

本来、職場は、各人にとって自己実現の場でなければならない、自己の良心に反しながら苦しみ葛藤する場にしてはなりません。（麗澤大学:倫理法令遵守マネジメントシステム規格の序文より引用）

2. あなたの役割

会社は、誠実さ、高潔さ、品格を高めることで社会の評価を受けています。

この評価を保ち高めるには、あなたは、あらゆる場面での意思決定や行動において正しい判断をしなければなりません。

3. 職場の雰囲気

会社は、健康的で安全でかつ効率的な仕事ができるように職場環境作りをしています。職場での性的ハラスメント行為、暴言、冗談により職場の雰囲気を不快にすること、周囲を怯えさせること、またはそのような状態を放置したり助長することは、職場環境に好ましくないものとして禁止しています。

4. プライバシー

会社は、個人の収入、健康、福利厚生上の情報等を集積し、行政機関との手続きに利用しており、これらの情報は厳格に管理して情報の保護にあたっています。これらの業務に携わる従業員は、知り得た情報を他のいかなる目的にも利用したりしてはなりません。

5. 会社資産の保護

会社には設備、建物、備品をはじめ、知的財産、一般的な技術情報、及び顧客から預かる機密文書等さまざまな有形、無形の資産があります。これら資産の保護は、全ての社員の責任であり、不正に使用したり、うっかり漏洩したり、盗難に遭うようなことのないように普段から万全の注意をはらわなければなりません。

6. 正確な報告

従業員は、業務の成果報告を記録したり、提出したりしています。例えば、技術者なら試験報告であり、営業なら受注報告であり、研究者なら研究報告であり、経理なら会計報告等です。これらの報告・記録がさまざまな関係する法律に抵触する場合があります。虚偽の報告、記録は会社の経営判断を狂わせることになります。これらは誠実・正確かつ事実に基づくものでなければなりません。

7. 健全な取引関係

会社は、売り手の立場であっても、買い手の立場であっても、これらの取引関係に、法令の遵守と社会の倫理を尊重します。従業員は、取引先の誰に対しても誠実な言動、誤解されない言動に努めなければなりません。この明快で率直な取引関係によって信頼関係を作り上げ、永続的な取引を築きます。

8. ライバル社との接触

事業活動において、ときにはライバル社と話しあったり、接触したりすることがあります。このようなときは、製品価格、契約条件、生産計画及び製品の技術情報等について話し合うことは、談合として違法となりますので注意してください。

9. 他社の情報収集

事業活動、営業活動の中で、他社の情報、ライバル社の製品情報を収集することは適正な営業行為です。これ自体は倫理に反するものではありません。取引先の信用情報、購入先の評価等、目的に応じて正当な手段で情報を収集しています。しかし、収集した情報の利用は目的の範囲に限定されるべきであり、他に漏洩しないように慎重に取り扱わなければなりません。

10. 使用制限付きの情報利用

お客さまから、製品供給の契約履行に必要な、使用制限付き情報（官公庁からの機密保持が必要な情報等）を文書又は口頭により提供を受ける場合があります。このような場合には、その使用条件について相手方と正式に合意した契約を行わない限り受領してはなりません。更に使用制限付き情報の契約は、稟議規程による承認を必要とし、契約後は、その契約内容に記載された使用・コピー配付・管理の取り扱いをしなければなりません。契約内容を逸脱した取り扱いは、いかなる場合も、法律違反と理解しなければなりません。

11. 贈答・接待

会社が提供する贈答物はさまざまです。贈る場合も贈られる場合も節度のあるものならば社会的にも法的にも許されています。しかし、議論の余地なく許されない賄賂は受けても渡しても罪になります。

会食や接待というビジネス上の慣習的儀礼は一定の範囲で行ったり受けたりすることが出来ます。しかし、相手方が官公庁職員の場合は、国家公務員倫理法および同規則の施行により法律違反です。

又、国により、これら法律や習慣は異なりますので、現地の法律により適法な行動が求められます。

12. 法令の遵守

会社は、コンプライアンス精神を事業活動の原点としています。業務遂行上、各種の法律上の問題に遭遇することがあります。その場合は、所管部門に相談の上、新たな法令の事項は総務部等関係部門に相談し、進めなければなりません。

顧問弁護士の助言を受けることで、未然に法律違反を回避することも出来ます。

2003年10月1日
イーグル工業株式会社 倫理委員会

中期経営計画

「G & G三ヵ年計画」の後を受け、2007年度より新たな三ヵ年計画に取り組んでいます。

グローバル・インテグラル・カンパニーを目指して。

C.S. E.S.*のさらなる向上のために (2007～2009年度三ヵ年計画骨子)

1.人を活かす企業文化の創造

- 全員のエネルギーと能力を活かせる経営の推進
- 相対評価、権威主義、減点主義、短期的利益追求の排除
- 風通しの良い企業風土の醸成

2.品質における顧客の信頼の獲得

3.シナジー効果があり且つ時代の趨勢に合う

新製品・新素材開発および知的財産の充実

4.全ての関係会社の見える化の推進および故障排除敢行

5.EBIアライアンス体制構築総仕上げ

6.四大プロフィットセンターおよび全スタッフ部門による改革・改善活動の推進と総合力の発揮

7.SCMを駆使した在庫削減による借入金の圧縮

8.法令遵守、環境保護、従業員の安全の確保、供給責任を果たす為のリスクマネジメントの充実

C.S. :顧客満足度 E.S:従業員満足度

当期の業績

当連結会計年度(2007年4月1日から2008年3月31日まで)における日本経済は、旺盛な設備投資や良好な個人消費を背景に比較的堅調に推移しましたが、年度後半には米国のサブプライムローン問題の影響と、急速な円高や原油価格の高騰等により企業収益の悪化懸念が高まりました。

こうした先行き不透明な経営環境のもと、当社グループは、2007年4月にスタートした三ヵ年計画の着実な遂行に全力を傾注しました。

実際には、グローバルな供給基地の整備拡充を図るため中国無錫に新工場を完成させる一方、タイにも新工場建設用地を取得しました。また、2007年11月には当社グループ企業であるイーグルブルグマンジャパン株式会社とイーグルブルグマンテクノ株式会社を合併し、一般産業機械業界向けメカニカルシールの生産・技術・販売の一貫体制を確立しました。さらに、舶用分野では受注増に対応して生産能力の拡大とグローバル販売サービス体制の充実化を図ったほか、航空宇宙分野では次世代エンジン用シールの開発を進め、世界民間機市場への挑戦を本格化しました。

その結果、当期は連結売上高874億6百万円(前期比10.8%増)、連結営業利益75億77百万円(前期比12.9%増)、連結経常利益83億61百万円(前期比10.4%増)、連結当期純利益39億94百万円(前期比8.6%増)となり、6期連続で最高益を更新しました。

中期的な経営戦略

当社グループは「G&G三ヵ年計画」(2004年度～2006年度)のもと高度なグローバル対応力の構築に取り組み、無事計画を達成しました。それを受けて2007年度にスタートしたのが「グローバル・インテグラル・カンパニーを目指して」をスローガンに掲げた新三ヵ年計画です。

グローバル・インテグラル・カンパニー(Global Integral Company)とは、軸封装置に対して世界のあらゆる産業から寄せられるニーズに最適なトータルソリューションを提供する[インテグラル=不可欠な]存在を意味しており、その実現に向け、グローバルな供給体制・サービス体制の拡充、ブルグマン社とのアライアンス強化などの諸施策を強力に進めています。

三ヵ年計画の最終年度である2009年度には、連結売上高1,000億円、連結営業利益100億円、ROA6%の達成を目標としています。この計画を着実に推進することにより、世界のメカニカルシール業界におけるリーディングカンパニーとしての地位をより確かなものとしてまいります。

企業価値向上のために

近年、企業の不祥事が相次いでいますが、その根底には、短期的な利益のみを追求する時代の風潮があると考えられます。当社グループの経営姿勢はその対極に位置するもので、絶えず長期的な視点で経営上の意思決定を行い、安定的な利益の確保と継続的な成長を目指しています。

当社グループは今日まで「企業は株主、従業員および社会の共有物である」という基本理念を堅持してきました。コンプライアンスの徹底、迅速かつ適切な情報開示、環境経営の推進、安全衛生の確保など、企業の社会的責任を常に意識しながら経営課題に取り組むことが、企業の持続的な発展と企業価値の持続的向上につながるものと確信しております。

EKKについて



環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善を図っています。

環境マネジメント方針

環境方針

基本理念

イーグル工業株式会社及びそのグループ会社は、企業が社会の一員であること、及び私達が生産するシール関連製品は公害防止・省エネルギー等環境保護に寄与する製品であることを踏まえ、事業の活動、製品及びサービスが地球規模での環境影響に深く関わりを持つことを自覚し、コンプライアンス(遵法の精神)を活動の原点とし、自主的・継続的に地球環境の保全に取り組めます。

行動指針

- 1.製品の開発にあたっては、環境影響に配慮します。
 - 2.省資源・省エネルギーに努めます。
 - 3.廃棄物の低減と再資源化に努めます。
 - 4.環境影響の継続的改善及び汚染の予防に努めます。
 - 5.法規制及び同意するその他の要求事項を遵守します。
- (その他の要求事項とは、例えば「加入している工業会の環境指針」等をいいます。)
- 6.環境目的・目標を設定し、適切な頻度で見直し、環境パフォーマンス向上を図ります。

2006年4月1日

イーグル工業株式会社
代表取締役社長

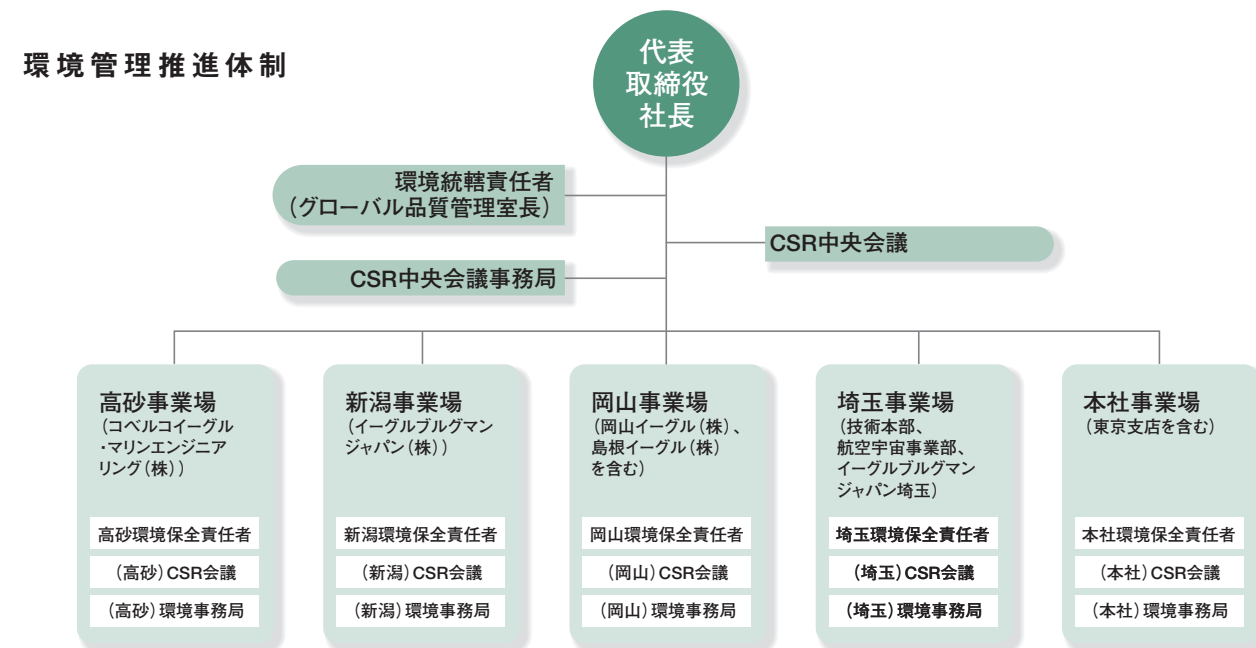
鶴 鉄二

環境管理推進体制

EKKグループでは、全社規模の環境マネジメント体制を整えています。体制の中心となるのは社長を議長とし、各事業場の環境保全責任者で構成される「CSR中央会議」です。

ここで決定された目的・目標のさまざまな取り組みが環境保全責

任者によって各事業場に展開されます。また、各事業場の環境保全責任者を議長とする「事業場CSR会議」が置かれ、ここで確認された各事業場の取り組みは「CSR中央会議」で報告され、経営層によるマネジメントレビューがなされます。



環境報告



環境目標・実績

環境方針に基づき、毎年、具体的な目標を設定し、その達成に向け取り組んでいます。

環境目的・目標（2007～2010年度）

方針	環境目的		2007年度の実績	2008年度環境目標	2009年度環境目標	2010年度環境目標
製品の開発にあたっては、環境影響に配慮する	1	会社の技術・資源等を活用し、環境影響の抑制に寄与する製品又は環境配慮型製品を開発する	鉛・六価クロム未使用製品の顧客対応：89.6%	鉛・六価クロム未使用製品の顧客対応：100%	維持・管理	
	2	環境に関する顧客問合せにスムーズに対応する（環境負荷物質含有量のデータベース化）	データベース化81.9%完了	データベース化100%完了	データベースの維持・管理	
省資源・省エネルギーに努める	3	CO ₂ 排出量を2010年までに2005年度対比5%削減する（24,273ton→23,100ton）	23,803ton	23,600ton	23,300ton	23,100ton
	4	コピー用紙使用量を2010年までに2007年度対比1%削減する（8,382千枚→8,300千枚）	8,382千枚	8,350千枚	8,320千枚	8,300千枚
廃棄物の低減と再資源化に努める	5	廃棄物のリサイクル化を推進する（2010年リサイクル率：98%）	88.8%	90%	94%	98%
	6	不適合品を削減する（品質目標（G品管室指標07-002）による）	埼玉：1.15% 岡山：0.38% 新潟：2.47% 高砂：23件	G品管室指標07-002による		
環境影響の継続的改善及び汚染の予防に努める	7	PCB入り設備（装置）を適正に管理する	適正管理維持を実施	管理手順に従った適正管理		
	8	2010年までにオゾン層破壊物質の大気放出量を2005年度対比重量(kg)で50%削減する（対象物質：HCFC225）	4,096 kg	2,200kg	1,900kg	1,500kg
	9	2010年までに、「トリクロロエチレン」・「ジクロロメタン」の使用を廃止する	119ton	83ton	0ton	維持・管理
	10	排水を適正に管理する	適正管理維持を実施	管理手順に従った適正管理（自主基準に基づく監視・測定）		
	11	事業場敷地周辺の環境美化に努める	事業場周辺の環境保全活動実施	事業場周辺の環境保全活動		
	12	原料・材料・部品・製品のグリーン購入の推進を図る（特定品を除く）	グリーン購入基準策定	※グリーン調達率25%	※グリーン調達率50%	※グリーン調達率100%
	13	最終放流口からの油流出の防止を図る	油流出による水質汚濁の危険性有り	管理手順に従った適正管理（自主基準に基づく監視・測定）		
法規制及び同意するその他の要求事項を遵守する	14	ボイラー・エンジン・空調機等に使用する燃料、ボイラー・エンジン・空調機等から放出する排ガスを適正に管理する	管理手順に従った適正管理（自主基準に基づく監視・測定）			

※グリーン調達率＝（グリーン調達ガイドライン順守取引先数÷グリーン調達ガイドライン適用取引先数）×100

ISO14001認証取得状況

EKKグループでは、国内の本社及び生産事業場が環境マネジメントシステムの国際標準規格「ISO14001」の認証を一括取得しています。これにより、同一方針、同一目的・目標のもとに、統一の取れた環境安全管理活動を行っています。2007年度はEKK営業支店にも展開し、2008年6月に認証の拡大を行いました。2009年度ではイーグルブルグマンジャパンの各カンパニー（営業支店）について認証拡大を目指します。

認証取得サイト

EKKグループ（審査機関＝高圧ガス保安協会）

イーグル工業株式会社

本社事業場、埼玉事業場、岡山事業場

イーグルブルグマンジャパン株式会社

コベルコイーグル・マリンエンジニアリング株式会社

イーグル・エンジニアリング・エアロスペース株式会社

岡山イーグル株式会社

島根イーグル株式会社

リグナムバイター株式会社（東京支店）

株式会社EKKアグリサイエンス株式会社（東京支店）

その他グループ会社

国内 株式会社バルコム

海外 Eagle Industry Taiwan Corporation
EagleBurgumann Taiwan Corporation
NEK Co.,Ltd.
Eagle Industry(Wuxi)Co.,Ltd.
Simrax B.V.
Eagle Seals and Systems India Limited

環境に関連する法令順守状況

EKKグループで順守すべき法令等は全部で185項目あり、現在それらについて100%の順守であることを確認しています。主な適用法令は下記のものがあります。

EKKの事業活動に関連する環境法令等

- 悪臭防止法
 - エネルギーの使用の合理化に関する法律
 - 下水道法
 - 工業用水法
 - 工場立地法
 - 浄化槽法
 - 振動規制法
 - 水質汚濁防止法
 - 騒音規制法
- 大気汚染防止法
 - 地球温暖化対策の推進に関する法律
 - 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
 - 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
 - 特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律
 - 毒物及び劇物取締法
 - 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
 - 特定家庭用機器再商品化法
- ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法
 - 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律
 - 河川法
 - 瀬戸内海環境保全特別措置法
 - 排水基準を定める省令
 - 土壤汚染対策法
 - 使用済自動車の再資源化等に関する法律
 - RoHS指令
 - ELV指令

緊急事態対応

EKKグループでは、燃料油・溶剤・廃水処理液などが万が一漏洩した際に備え、定期的に緊急事態訓練を実施しています。下の写真は、2007年度に岡岡で実施したオイルフェンスの接地訓練と、汚水流出の回収説明を行った時のものです。



環境教育

EKKグループではISO14001の認証取得事業場所属の全従業員に対し、毎年、環境業務推進計画書に基づき環境基礎教育を実施し、環境保全の専門教育を適宜行っております。また、協力会社へ出向いての教育等も行っております。



内部監査員の養成教育を行い、社内レベルの向上を目指しています。



新入社員への環境教育を行い、意識付けを図っています。

事業活動と環境負荷

EKKグループは事業活動の各段階において、環境負荷の低減に努めています。

原材料

カーボン原料
セラミック類
プラスチック類
金属材料

エネルギー

電力
ガソリン・灯油
A重油・軽油
LPG

各種副資材

揮発性有機溶剤
塩素系溶剤
接着剤原材料
包装資材

水

上水
工業用水
地下水

IN

埼玉事業場



岡山事業場



新潟事業場



高砂事業場



呉工場

OUT

主要製品生産量

AI向け製品
155.0百万個
GI向け製品
9.9百万個
航空宇宙/船舶用、他
0.6百万個

大気への排出

CO₂ 23.149ton
PRTR 46,530kg

水域への排出

岡山事業場 全て下水道へ
埼玉事業場 244.7千m³
新潟事業場 50.9千m³
高砂事業場 1.3千m³

廃棄物

総廃棄物量 3,314.5ton
(内訳)
岡山事業場 2,009.0ton
埼玉事業場 372.8ton
新潟事業場 737.0ton
高砂事業場 195.7ton

省エネルギーへの取り組み

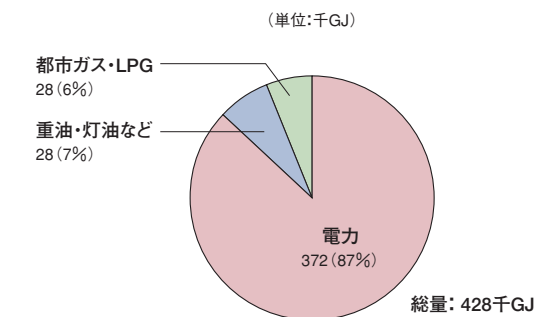
従業員一人ひとりが「省エネルギー」への意識を持ち、効率的な省エネルギー活動を進めています。

EKKグループでは、省エネルギーによる地球温暖化防止の貢献を重要な課題と捉え、2010年度における二酸化炭素排出量を2005年度対比で5%削減することを目指して取り組んでいます。

具体的には各事業場において、生産に必要なエネルギー供給源

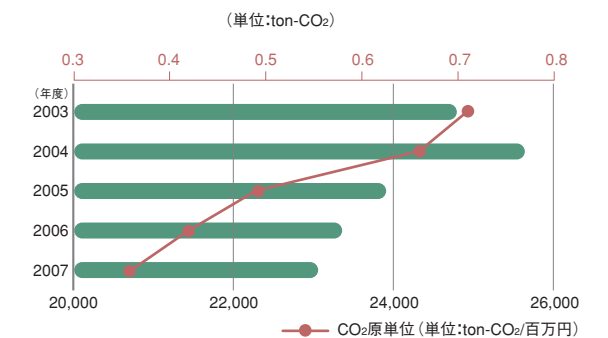
について重油仕様設備の変更検討や各設備のインバーター化を進める等、効率化、低CO₂化を図っています。極力不必要な天井照明灯は消すことや設備の不要な電源はOFFにするなど、きめの細かい配慮を心掛けています。

2007年度エネルギー使用量の内訳



※ジュールへの換算「エネルギー使用割合の合理化に関する法律施行規則」(平成18年3月改正)の係数を用いて算出しています。

二酸化炭素排出量の推移



※CO₂原単位 = CO₂排出量 (ton) / 生産金額 (百万円)

※CO₂換算係数は年度の推移を見るために、当社は電気事業連合会の公開数値を参考に設定した値を用いています。

岡山事業所の取り組み

圧縮エアーコンプレッサーを省エネ型に入れ替え、CO₂も削減。

岡山事業場 設備管理課

岡山事業場は第一種指定工場として年1%の原単位削減の義務があり、毎年目標達成できるよう省エネに取り組んでおります。

事業場の中でもエネルギー消費の多い空気圧縮機、空調機、照明などを設備管理課で管理していることから、中長期計画を立案し、効率の良い運転、または省エネ機器への更新を行い、省エネ活動を推進し効果を出してきました。2007年度はエアーコンプレッサーを重油燃料タイプから電機稼動タイプに切り替えたことにより、CO₂を648トン/年削減しました。

次年度からは、生産現場のさらなる省エネを図るため、原単位の削減達成に向け取り組みます。



エンジン駆動コンプレッサー



モータ駆動コンプレッサー

私の省エネ活動

“もったいない” 感の浸透に努めています。

新潟事業場生産技術部
部長 坂井 隆文



EBJ新潟では自家発電機を休止することでCO₂発生を抑制し、また設備更新時には省エネ型設備の採用等を行ってきました。省エネ型設備としては、インバーター方式採用・複数電動機の群管理、ヒートポンプ化、省エネベルト採用等の適用を図っています。身近な面でも、照明設備の高効率化、人感スイッチによる照明の自動ON/OFF、外灯点灯条件の絞り込み等、極力無駄なエネルギーを使わないよう努めています。しかし、一番大切なのは従業員一人一人の省エネ意識。



ガスヒートポンプ式空調システム

技術的アプローチも継続しつつ、皆が心底“もったいない”感を持つよう話し合っていきたいと思っています。

廃棄物削減への取り組み

リサイクルの推進を通して、廃棄物の削減に努めています。

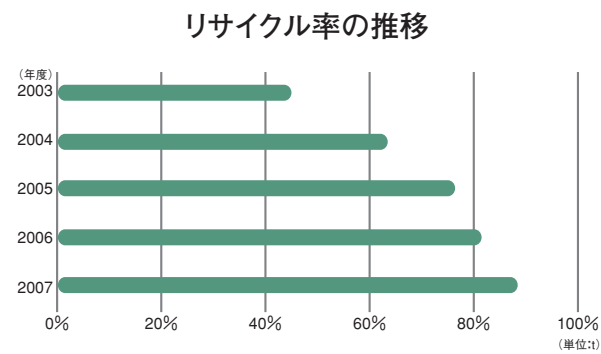
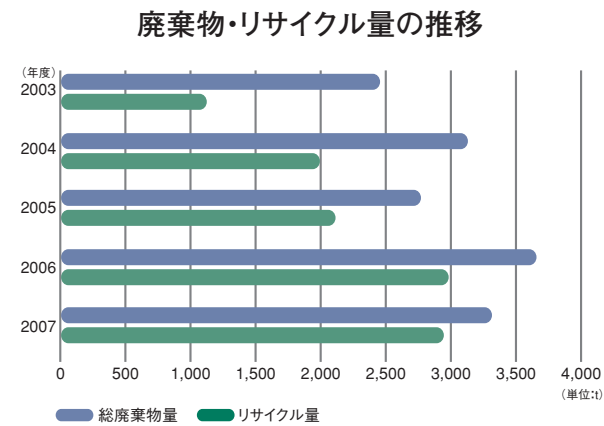
大量廃棄型の社会がもたらす廃棄物問題は、企業活動で発生する廃棄物の動向については、ステークホルダーの皆様、それととりわけ周辺住民の方から高い関心が寄せられています。EKKグループではこれを「企業の社会的責任」と捉え、安全かつ適正に処理しています。

2001年度当初、リサイクルできたのは一部の金属廃棄物のみでしたが、その後、廃プラスチック、カーボン粉、有機汚泥等をリサイク

ル化し、2007年度はリサイクル率目標89%を達成しました。

循環型社会の実現に向けて、2010年度には「リサイクル率98%」を達成することを目標に、全ての事業活動で廃棄物のリサイクル化を進めています。

今後も、事業活動の環境負荷低減のための、新たな廃棄物のリサイクル化について積極的に探求していきます。

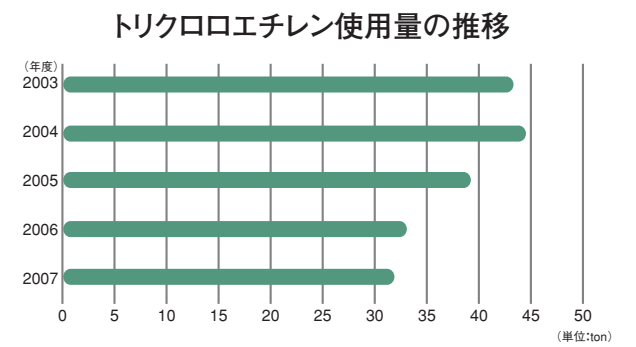
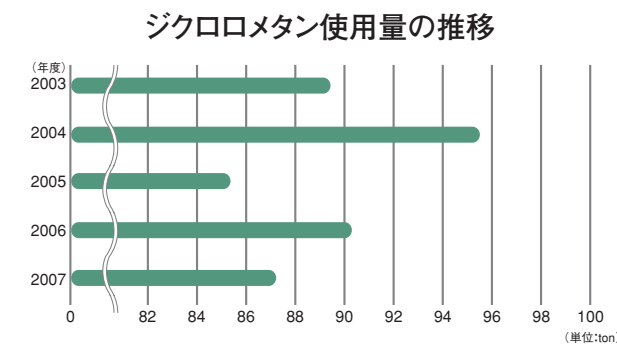


汚染防止・化学物質管理

地球によりやさしい事業活動を目指し、継続・改善に取り組んでいます。

塩素系溶剤の使用と削減

EKKグループでは金属加工品の洗浄等のためにジクロロメタンおよびトリクロロエチレンを使用しています。しかし汚染の防止と、事業活動における環境負荷低減のため2008年度での使用全廃を目指して削減に取り組んでいます。



岡山事業場の取り組み

塩素系有機溶剤の全廃を目指しています。

岡山事業場 環境安全課

岡山事業場(EKK岡山、岡山イーグル(株)、島根イーグル(株))では、EKKグループのジクロロメタンおよびトリクロロエチレン使用量のほぼ全量を使用しており、塩素系有機溶剤の全廃に向けて、責任の大きさを自覚しています。2008年度は、EKKグループ全体の目標である「年度末での全廃」を達成するため、右のスケジュール表の通り代替洗浄機の切替えを計画し、それに従い設備を導入していきます。また、「VOC全廃プロジェクト会議」を適宜開催して切替えの進捗を確認し、遅れの無いよう推進しています。



炭化水素洗浄機



水溶性洗浄機

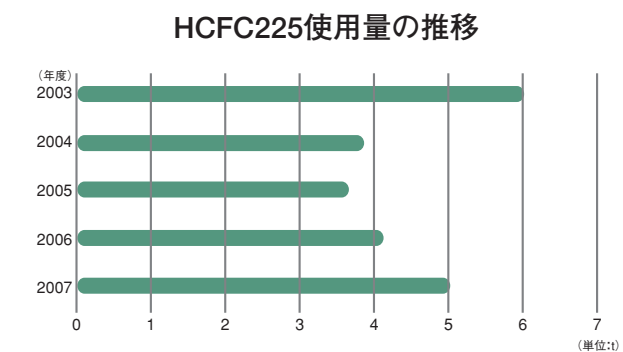
ジクロロメタン・トリクロロエチレン全廃スケジュール

使用部署	08/4	08/5	08/6	08/7	08/8	08/9	08/10	08/11	08/12	09/1	09/2	09/3
EKK岡山	○											
岡山イーグル(株)				○								
島根イーグル(株)					○							
岡山イーグル(株)						○						
EKK岡山									○			

HCFC225* (オゾン層破壊物質)

EKKグループでは精密部品の洗浄等にHCFC225を使用していますが、オゾン層破壊防止のため、2010年度の大気放出量を2005年度実績の50%削減とすることを目標に取り組んでいます。2007年度は回収装置の設置を行い蒸発防止や、代替剤の検討により、削減に向けて取り組みました。

*HCFC225 ハイドロ・クロロ・フルオロ・カーボン225



洗浄装置

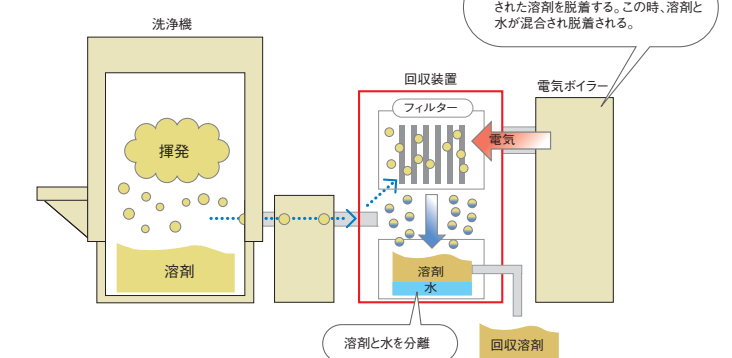


回収装置



回収

回収装置の構造



EKKグループ各事業場の廃棄物削減の取り組み

岡山事業場



成形バリのリサイクル



集積

一般廃棄物(2種類)、産業廃棄物(8種類)、特別管理産業廃棄物(6種類)、リサイクル(10種類)に分け、それぞれ保管量を明確にして管理しています。



粉碎



リサイクルへ

埼玉事業場



新潟事業場



高砂事業場



お客さま、お取引先さまとともに

EKKグループはお取引先さまの協力のもと、さまざまな面でお客さまの信頼獲得に努めています。

PRTR

EKKグループでは、指定化学物質の環境への排出量・移動量の届出を義務付けるPRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）に従い、2007年度

は下記7物質について届出を行いました。2007年度は塩素系溶剤の全廃に向け代替洗浄検討などを推進しました。

PRTR対象物質の排出・移動量

政令番号	第一種指定化学物質の名称	排出量[kg]				移動量[kg]	
		大気	公共用水域	事業所土壌	事業所埋立	下水道	事業所外
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	0	0	0	0	0	170
43	エチレングリコール	0	0	0	0	0	1,800
144	ジクロロペンタフルオロプロパン	3,300	0	0	0	0	519
145	ジクロロメタン	28,230	0	0	0	0.3	7,400
198	ヘキサメチレンテトラミン	0	0	0	0	0	520
211	トリクロロエチレン	15,000	0	0	0	0.7	1,600
266	フェノール	0	0	0	0	0	340
	合計	46,530	0	0	0	1	12,349

土壌、地下水汚染改良への取り組み

埼玉事業場は1965年に開設し、その後、1997年まで金属製品の洗浄工程においてトリクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンの塩素系溶剤を使用していました。1995年からの自主調査で、これらによる土壌汚染が生じていることが判明し、また、その後の地下水

調査でも汚染が判明しました。土壌汚染については汚染土壌の入替工事を行い、地下水汚染については、汚染の拡大防止のため事業場敷地境界にバリア井戸を敷設し、また事業場内に汚染除去井戸を敷設し、浄化作業を推進しています。



地下水調査（観測井戸のバージング）



地下水調査（揚水井戸の試料採取）



地下水調査（簡易分析試料）



土壌ガス調査（測定）



土壌ガス調査（試料採取）

EU指令（ELV規制*・RoHS規制**）への対応

EUは、材料・構成部品に含有される環境負荷物質を排除するため、ELV規制では鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、RoHS規制では前記4物質のほかに臭素系難燃剤（ポリ臭化ビフェニル、ポリ臭化ジフェニルエーテル）の使用を禁止しました。EKKグループではこれ

らの規制に対応すべく、対象製品のデータベース化を行っています。2008年度末までには上記の環境負荷物質の使用中止を決定しています。

*ELV規制 EUが2000年10月より施行した、使用済み自動車（End of Life Vehicle）に関する指令。
**RoHS指令 EUが2006年7月より施行した、電気電子機器に関する指令。

EKKグループではお客さまに安心してご使用いただける製品をお届けするため、お取引品（原材料、部品、副資材）の調達から生産、出荷までの流れにおいて、品質、納期、環境配慮等の面でお客さま満足度の一層の向上を図るよう努めています。また、そのためには、お取引先さまのご協力が必要不可欠であると考えています。これまで、お取引先さま

のご協力のもとさまざまな取り組みを実施しており、お客さまより表彰していただいたこと等もあります。こうした実績を活かし、今後も一層のレベルアップを図り、今まで以上にお客さまから信頼される企業であり続けたいと考えています。

製品の環境負荷リスク低減の取り組み

ソレノイドバルブおよび関連品におけるELV規制への対応

岡山事業場 機器設計一部・二部部长 上村 訓右

岡山事業部ではソレノイドバルブおよび関連品において使用材料のデータベース化を進めるとともに、対象製品をピックアップして、約4,000品目について対応が完了しています。また、規制適用外の品目についても、今後の規制に先行して対応を進めています。

以下に、鉛、カドミウム、六価クロムへの対応事例を紹介します。（水銀の使用はありません）。

●鉛ハンダ

現在これは規制適用外となっていますが、EKKでは1996年より鉛レスハンダをソレノイドに使用し、以降の新製品に展開し

ています。これ以前の製品においても順次変更を進めています。また、実験室内で使用するハンダについても、鉛の使用を中止しています。

●銅合金中のカドミウム

対象製品の銅合金中の不純物として含有するカドミウムの量を0.01%以下とし、素材メーカーの協力のもと、管理・維持体制を構築しました。

●六価クロム防錆コーティング

対象製品において、メッキサプライヤーの協力のもと、六価クロムレスのコーティングへの切り替えが完了しています。



お客さまからの感謝状

製品の安定供給、環境面での協力（製品開発）など、当社の事業活動に対して、多くのお客様より表彰されています。

日立プラントテクノロジー様より「生産功労賞」を受賞。

2007年4月、株式会社日立プラントテクノロジー様より「納期取り纏め対応協力」が認められ、「生産功労賞」を受賞しました。同社にはEKK水戸支店が窓口となり、ダイヤフラムカップリングを主体にNOKグループ品も販売しています、今回の受賞は、EBJをはじめNOKグループ品に関する納期遵守が優秀であることが評価されたものです。EBJおよびNOKグループのご関係者にお礼申し上げるとともに、今後も納期遵守を継続することにより、お客様に喜ばれる関係を継続していくよう努めてまいります。



三菱重工業様より「07年度品質活動優秀賞」を受賞。

2007年11月、三菱重工業株式会社冷熱事業本部様より、EKK名古屋支店による2007年度の品質向上活動が高く評価され、品質優良取引先に選ばれました。同社より表彰を受けるのは03、04、06年度に続く4度目ですが、今年度は約500の全取引会社の中で最優秀であると認められ「品質活動優秀賞」を受賞しました。同社が製造される自動車用・一般産業用・家庭用エアコン、および冷凍機群に向けてNOKグループ各社の製品を納入していますが、この名誉ある受賞は関係各部門の地道な品質向上活動の賜物であると思います。今後もさらなるレベルアップを目指してまいります。



従業員とともに

従業員が働き続けたいと思えるような、安全で健康に働ける職場づくりに取り組んでいます。

安全衛生方針

基本理念

イーグル工業株式会社及びそのグループ会社は、愛情と信頼の会社理念のもと、コンプライアンス（遵法の精神）を活動の原点として社会的責任を果たし、社会に貢献する製品を提供することにより、永続があり夢と誇りを持てる企業を従業員と共に目指します。

この理念のもと、心身ともに健全で活力ある人材を育むと共に、無事故・無災害で快適な働き甲斐のある職場の実現に向け、安全衛生マネジメントシステムを構築して労働安全衛生活動に取り組めます。

行動指針

- 1.全従業員の参加・協力のもと、事業活動に伴う危険源を的確に把握して評価し、重大リスクの低減に取り組みます。
- 2.安全衛生目標を設定し、継続的改善により、パフォーマンスの向上を図ります。
- 3.法規制及び同意するその他の要求事項を遵守します。
（その他の要求事項とは、例えば「加入している工業会の指針・網領」等をいいます。）
- 4.安全衛生及び健康保険は、良好なコミュニケーションの下に実現されるとの認識に立ち、労使間・職場間の活発な議論や協議を尊重します。
- 5.安全衛生及び健康の確保に必要な教育・訓練を実施し、安全衛生・健康の重要性について周知に努め、意識高揚を図ります。

2006年4月1日

イーグル工業株式会社
代表取締役社長

鶴 鉄二

安全衛生の取り組み



安全衛生統轄責任者
常務取締役業務本部長
猪谷 哲也

当社グループは2006年度よりOHSAS18001に基づく安全衛生マネジメントシステムを国内関連会社含む全社に導入し、安全衛生管理体制の充実を図ってきました。2年目の2007年度は各事業場の重大リスクの把握・対策を行い職場の危険源の削除に努めました。またシステムの中で、「設備使用許可基準」を作成し、現場でのリスクアセスメントだけでなく、設備の使用前（設備の設計時・購入時・据付時）の段階でも確実なリスクアセスメントが行えるようになりました。2007年度は環境のマネジメントシステム（ISO14001）と内部監査を同時に行うなど、他のマネジメントシステムとの連携も推進してきました。

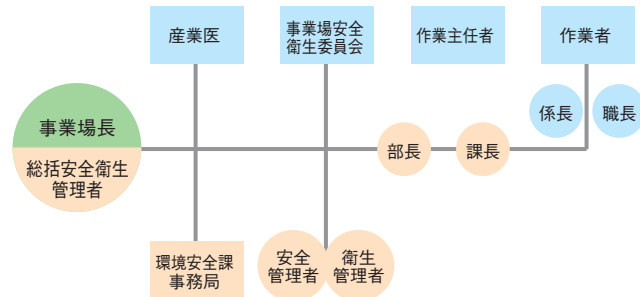
2008年度は海外関連会社に対しての安全衛生活動の支援が大きな目標となっております。各国の法律や現状を把握すると共に国内外問わず社員に不幸な事故を起こさせない、という強い意志を持って安全衛生活動を推進したいと思っています。

労働安全衛生管理体制

EKKでは、各事業場長を総括安全衛生管理者とする安全衛生管理組織を設置して安全衛生活動を推進すると共に、事業場事務局と本社総務部が連携し、全社レベルの取り組みを行っています。

従業員の安全意識の向上と労働災害情報の共有化による再発防止を目的として、1973年より毎年、NOKグループの「労働災害統計」を各事業場の課長以上の役職者へ配布しています。

各事業場の安全衛生管理組織



心と体の健康

EKKグループでは、従業員の心身の健康維持・増進を目的として、24時間電話健康相談サービス（無料）を提供しています。また、従業員の心身の健康維持・ストレス解消の対策として、2007年度は専門医による「健康と睡眠」についての講演を各事業場で行いました。

24時間電話健康相談サービス（2007年4月1日～2008年3月31日）

相談内容	件数
健康維持・増進	2
気になる体の症状	171
家庭看護	36
治療	108
母子保健	5
育児	66
夜間・休日の医療機関	8
ストレス・メンタルヘルス	49
医療サービスの紹介・手配	36
その他	32
合計	513

※上記件数は、NOK、EKKグループの合計



「健康と睡眠」の講演（左：埼玉事業場/右：新潟事業場）

障がい者雇用への対応

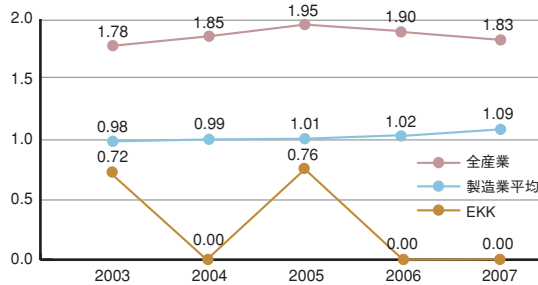
EKKグループでは、障がい者の方々働きやすいように、適性に応じた職場への配置や、障がい者の方々に従事していただく業務の創出を進め、雇用拡大に取り組んでいます。

EKK国内労働災害発生状況

（対象事業場：埼玉事業場、岡山事業場）

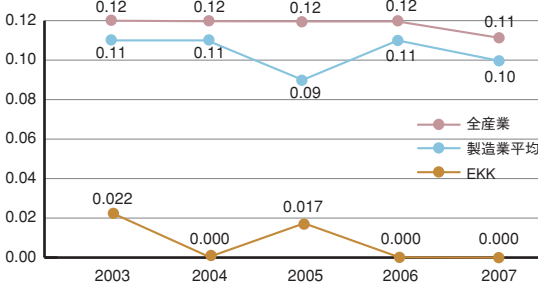
2007年度のEKK各事業場では、2006年度に引き続き休業日数1日以上以上の災害の発生はありませんでした。しかし、切傷や打撲などの軽度の災害は発生しており、現場における危険源は未だに潜んでいます。今後は労働災害ゼロから危険源ゼロの職場を目指して取り組んでいきます。またグループ全体（海外含む）では休業災害も発生しており、今後の安全衛生活動の課題となっています。

災害度数率*の推移（国内）



* 災害度数率：100万延べ実労働時間あたりの被災者数（災害の発生頻度を表す指数）

災害強度率*の推移（国内）



* 災害強度率：1000延べ実労働時間あたりの労働損失日数（災害の重さの程度を表す指数）

職場環境改善への取り組み

EKKグループでは、1993年より職場改善の取り組みを開始し、第一次、第二次、第三次に分けて、作業環境対策を行ってきました。第一次では作業環境管理（騒音、暑熱、寒冷）、第二次では作業管理（作業姿勢、重量物の取扱い）、第三次は2004年度～2006年度期間でサポートシステム管理（リラックスするための施設・職場生活に不可欠な施設の準備）を行ってきました。

2007年度は今までの改善活動の維持と新規導入設備の適正な管理を行いました。岡山事業場では大型プレス機の防音対策をはじめとした対策を実施しました。



プレス防音ボックス



局所排気装置

社会・地域とともに

企業としての社会的責任を果たし、すべてのステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切にしています。

福利厚生

EKKグループでは、「毎日の生活の充実」「不時の場合の生活保障」「定年後の生活の安定」をキーワードに、福利厚生の充実に努めています。

主な福利厚生制度

目的	内容
財産形成	従業員持株会ほか
会社生活と家庭生活の調和	育児休暇、介護休暇ほか
経済的安定	退職金制度
住居等	社宅、独身寮制度、自動車リースほか

交通安全の取り組み

EKKグループでは、交通安全教育の一環として、各社・各支店で交通安全運動を実施しています。

無事故・無違反の従業員に対しては、5年毎に表彰しています。交通事故や違反を行った従業員には、業務か、私用かを問わず「事故報告書」「違反届け」を提出してもらい、職場ごとに自戒を促し、再発防止に努めています。今年度は道路交通法の改正に先立ち「後席シートベルト着用」のキャンペーンを行いました。



交通安全講話（埼玉事業場）



後席シートベルト着用キャンペーン（新潟事業場）

岡山事業場の取り組み

従業員全員で「交通安全ラリー」を実施。

岡山事業場では、従業員に不幸な事故を起こさせないという強い意志のもと交通安全活動を行っています。

啓蒙活動として交通安全週間には事業場に幟を立て、また長期連休前には、帰社する社員に対し「一声運動」などを行い注意喚起しています。2008年4月からは、交通安全運動の一環として、「無事故無違反」の決意カードを私有車に掲示する「交通安全ラリー」を行い、交通事故・違反の低減活動を行っています。



交通安全週間幟



街頭一声運動



社用車へのステッカー

従業員表彰制度

EKKでは毎年、常に他の模範となり業績向上に特に貢献した従業員の労をねぎらうとともに、モチベーションの向上を図る目的で従業員表彰を行っています。2007年度の実績は下表の通りです。

2007年度従業員表彰

表彰内容	受章者数
団体表彰	1グループ
勤務成績優秀者表彰	4名
発明考案表彰	1名
製造改善表彰	39名
販売優秀表彰	12名
事故改善表彰	12名
永年勤続者表彰	56名

再雇用制度

EKKでは、2006年度に再雇用制度を導入しました。再雇用基準は「心身ともに健康であり、働く意欲がある者」で、多くの方がこの制度を利用して定年後の生活の安定を図る一方で、若い世代に技術・ノウハウの伝承を行っています。

次世代育成計画

EKKでは、所定労働の削減・年次有給休暇の取得促進などを通じて、子育てを行う従業員の会社生活と家庭生活の両面を支援するための雇用環境整備に努めています。

健康管理システムの導入

EKK(岡山・埼玉)ではNOK健康保険組合と事業所をオンラインでつなぎ、人間ドック検診結果をデータ化し送付して、健康管理システムの端末で看護師による「保険指導」「人間ドック日程管理」等に活用できるシステムを導入しました。これにより適切な保健指導を行います。理想の食事の仕方や、生活習慣改善の必要に気づかせる説明を行い、健康維持の一助としています。



岡山事業場・医務室



埼玉事業場・医務室

社会とのコミュニケーション

情報の公開

EKKでは、事業報告書、技術（英文含む）マニュアルなどのコミュニケーション媒体を発行しているほか、インターネット・ウェブサイトによる情報公開を積極的に行っています。

報告書、およびその他の情報はEKKウェブサイトよりご覧いただけます。

URL <http://www.ekk.co.jp/>

主な公開資料

会社案内

有価証券報告書

CSR報告書

事業報告書

技術パンフレット

リクルート用資料



Web ホームページ



2007年度 年次報告書



CSR報告書2007

展示会への出展実績（2007年度）

展示会名	期間	会場
ファインテックジャパン	4/11～4/13	東京ビッグサイト
浜松テクニカルフェア	4/13～4/14	浜松産業展示館
ACHEMASIA	5/14～5/18	北京
MEX 金沢 2007	5/17～5/19	石川県産業会館（金沢市）
トライボロジー会議	5/28～5/30	国立オリンピック記念青少年総合センター
Turbomachinery Symposium	9/10～9/13	Huston（アメリカ）
紙パルプ協会年次大会（高松・大江）	10/10～10/12	サンメッセ香川（高松市）
粉体工業展2007（大阪）	10/16～10/19	インテックス大阪（南港）
モーターショー	10/27～11/11	幕張メッセ
INCHEM2007	11/6～11/9	東京ビッグサイト
セミコン	12/5～12/7	東京ビッグサイト

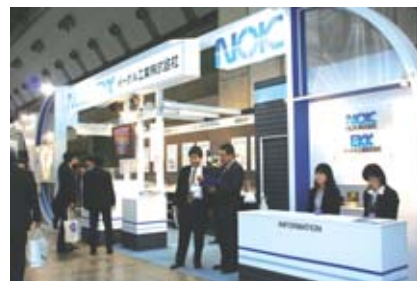
株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

EKKグループは2007年5月に決算説明会を、また同年11月には中期決算説明会を開催しました。企業アナリスト、機関投資家のファンド・マネージャー、マスコミ関係の方々に向けて、当社経営陣が決算情報や事業内容について説明を行いました。参加された方々からは、多岐にわたる質問があり、活発な質疑応答が行われました。

展示会への出展

EKKグループでは、幅広いお客さまとの相互コミュニケーションを推進するため、各種展示会へ積極的に参加しています。2007年度は下表に示した、各種展示会へ出展しました。

下の写真は、2008年4月にNOKと共同で「ファインテック・ジャパン」に出展したときのものです。この展示会は毎年東京ビッグサイトで開催され、液晶・プラズマなどのフラットパネルディスプレイ製造に関する世界最大の専門技術展です。2008年は「磁性流体シール」や「メカニカルシール」など、さまざまなシーンで対応できるEKKグループのシール技術を紹介しました。磁性流体シールでは、200℃の環境でも使用できる新商品の展示に大きな人だかりができました。



展示ブース（2008年ファインテックジャパン）



磁性流体シール（2008年ファインテックジャパン）



バルコム・ロードセルのデモ機

環境投資・安全衛生投資

企業としての社会的責任を果たし、すべてのステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切にしています。

地域社会とのふれあい

夏祭りの開催

毎年EKKの各事業場では夏祭りを開催し、従業員やその家族、また地域の住民の方々をお招きして交流を深めています。2007年度も、各事業場において種々の模擬店や各種イベントを行い、多くの皆様に来場いただき、大繁盛となりました。今後とも地域行事への参加やイベント開催を通じて、従業員一同団結し、地域の皆様方とのふれあいを大切にしていきます。



埼玉事業場



岡山事業場

周辺地域の美化運動

EKKグループでは、各事業場周辺の美化運動として、定期的にゴミ拾いなどの活動を行っています。



工場周辺の一斉清掃
(岡山イーグル株式会社)



周辺美化活動(埼玉事業場)



周辺美化活動(新潟事業場)

地域社会との交流

埼玉事業場では、地域の方を招いてマラソン大会の開催や、合同での美化活動などを行っています。また、岡山事業場では事業場内のグラウンドを少年野球やグラウンドゴルフに開放し、地域のお子様からお年寄りまで世代を超えてご利用いただいています。



マラソン大会開催による地域との交流
(埼玉事業場)



グラウンドの開放(岡山事業場)

団体への参加・寄付活動

EKKが加盟、または参加している団体は下表の通りです。

加盟・参加団体

●業界団体

社団法人 日本産業機械工業会

社団法人 日本自動車部品工業会

社団法人 日本航空宇宙工業会

社団法人 日本船舶工業会

警視庁管内特殊暴力防止対策連合会

●環境・安全関連団体

東京衛生管理者協議会

中央労働災害防止協会

日本産業衛生学会

エネルギー・資源学会

みなと環境にやさしい事業者会議

個人情報保護

EKKグループはお客様個人を識別しうる情報の重要性を認識し、その保護については「個人情報の保護に関する法律」などを遵守するとともに、プライバシーポリシーに従い管理を徹底し、「個人情報保護規定」を定め、お客様に安心してご利用いただけるよう活動しています。

環境投資

2007年度のEKKグループの環境に関連する投資金額は約350百万円となりました。主な内容は、岡山事業場での塩素系溶剤全廃計画に伴う代替洗浄機の導入、埼玉事業場でのエアコン更新工事、新潟事業場でのコンプレッサー省エネ対策等があります。

2007年度の主な投資内容

埼玉事業場(36,475千円)

- エアコン更新工事
- 分電盤、ケーブル交換
- 食堂生活排水ばき槽・汚泥貯留槽改修

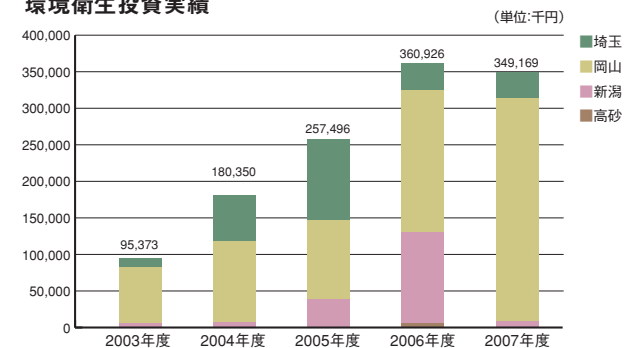
岡山事業場(303,857千円)

- 雨水緊急排水施設
- 炭化水素洗浄機導入
- 岡山イーグル排水処理施設導入
- 給湯設備の省エネ化

新潟事業場(8,837千円)

- コンプレッサー省エネ対策
- 排水ピット汚泥引抜き
- 市水受水槽清掃工事

環境衛生投資実績



排水処理施設(岡山イーグル株式会社)



雨水排水処理施設(岡山事業場)

安全衛生投資

2007年度EKKグループ安全衛生投資金額は、39,623千円となりました。主な投資としては工場棟耐火工事、プレス防音ボックスの作製、危険物貯蔵所の設置などを行いました。2008年度は緊急事態に備えた設備やリスクマネジメント委員会で対策項目となった工場棟の耐震補強工事等を計画しています。

2007年度の主な投資内容

埼玉事業場

- 受変電室 受電盤更新

岡山事業場

- 第一工場棟耐火工事
- プレス防音ボックス

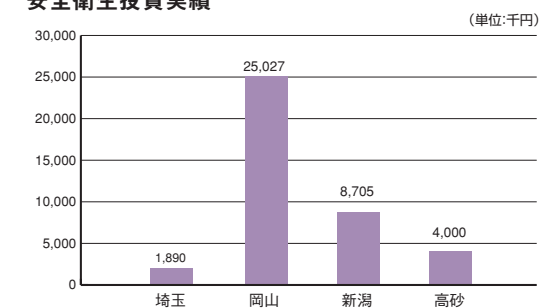
新潟事業場

- メンタルヘルス年間委託

高砂事業場

- 危険物屋内貯蔵所の設置

安全衛生投資実績



プレス防音ボックス(岡山事業場)



ラップ盤(岡山事業場)

サイトレポート

各事業場、各関連会社では、同一方針のもと、環境負荷低減への取り組みに努めています。

本社事業場



事業場長
常務取締役
業務本部長
猪谷 哲也

本社事業場は、EKKグループの環境および安全衛生活動の統轄部門が所属するとともに、全国の営業支店とともに、非生産事業場としてオフィス・営業部門を中心とした活動を展開しています。環境面ではいわゆる紙・ゴミ・電気といった身近な活動にとどまらず、例えば営業部門においては環境に優しいEKK製品の拡販を環境指標と位置づけて推進しています。安全衛生面においては、交通安全の指導やメンタルヘルスへの取り組みを中心に、健康で安全な職場の創出に努めています。

埼玉事業場



事業場長(兼務)
常務取締役
業務本部長
猪谷 哲也

新エミッションシールの開発完了をはじめ、CO₂ 5%削減(前年比)、および廃棄物のさらなるリサイクル化を達成しました。また、事業場周辺の環境美化活動を実施し地域住民の方々に好評を得ております。今後も環境影響の抑制に寄与する製品の開発、CO₂・オゾン層破壊物質の削減を継続して行います。

[主な製品]

- ジェットエンジン用シール
- ロケット用シール等の航空宇宙機器用シール

島根イーグル株式会社



社長執行役員
金田 忠明

島根県東部に位置し、下流域にはシジミの名産地でもある「宍道湖」を擁しています。場所柄水質の管理には重責を感じ、企業の責任を果たすべく生産活動、環境管理を行っています。環境保全活動として2007年度はフロン回収装置導入によるフロン使用量削減を図り、工程より排出される成型バリのマテリアルリサイクル化を実施しました。2008年度は、VOC代替洗浄機を導入計画しています。環境の保護に繋げていくよう環境保全活動を推進していきます。

[主な製品]

- リップシール
- ソレノイドバルブ

バルコム株式会社



取締役社長
山下 秀興

当社の本社工場は、大阪空港(伊丹)より徒歩で10分、阪急豊中駅より徒歩15分、阪神高速豊中北より5分とアクセスの良い場所で企業活動を展開しております。環境面におきましては、2004年度の「ISO14001」の取得をひとつの節目として、環境保全活動の継続と、近隣環境保護に向けて、活動を推進しております。2007年度は、鉛入りハンダの全廃、RoHS指令の完全履行、廃棄物排出量の削減、使用電力量の削減等を実施いたしました。2008年度は、2007年度の活動に加えてジクロロメタンの全廃を目指し、設備の新設も計画しております。

[主な製品]

- 圧力センサ(歪出力、アンプ内蔵)、圧カス イッチ
- ロードセル
- デジタル表示器



岡山事業場



事業場長
常務取締役
青野 文章

岡山事業場は岡山県の中西部にある高梁市に位置し、美しい山々と清流にはぐまれた地域環境で事業活動を行っています。2007年度は前年比12%増の生産を受け、CO₂ 排出量が生産原単位では3%減したものの総量では10%増となりました。塩素系溶剤も切り替え計画に遅れを生じ3%減にとどまりました。2008年度は掲げた目標を達成すべく全員一丸となって環境保全活動に努めてまいります。また一方では、コミュニケーションを通じて経験・知識の伝承を行い、活気ある働きやすい職場の創造を図っていきます。

[主な製品]

- 汎用メカニカルシール
- コントロールバルブ
- 原子カプラント用特殊バルブ

イーグルブルグマンジャパン株式会社



事業場長
専務取締役
伊藤 正伸

当社は1989年の設立以来、EKKグループのGI(一般産業向け)製品の主生産拠点として成長を続け、2006年からはドイツのブルグマン社と業務提携(EBIアライアンス)により現社名となりました。環境面保全については、優良な水田や自然に囲まれた事業場としての排水管理徹底に加え、2007年度はエネルギー転換によるCO₂排出量削減や、廃棄物のリサイクル化を進めEKKグループの環境保全目標達成に大きく貢献しました。安全衛生面においても、ブルグマン社との交流により保護具の改善等を実践するなど、より進んだ安全な職場の創出を目指しています。

[主な製品]

- メカニカルシール(工業用・汎用・攪拌機用)
- ダイアフラムカップリング
- 溶接ペローズ
- 磁性流体シール
- 船用機器製品
- 焼結機械

リグナムバイター株式会社



取締役社長
後藤 一彦

KEMEL製品を主体とした船用関連製品の仕入れ販売が主業務です。製造部門ではボイラー燃料を重油からLNGに、又フォークリフトをガソリンから電動に変更しCO₂削減に取り組んでいます。事務部門ではKEMELと共同で省エネ(昼休み消灯、30分以上離席の際はP/C電源オフ、コピーは原則裏紙使用等)を推進しています。

[主な製品]

- KEMEL製品
- メカニカルシール
- ラダーブッシュ(フェノール樹脂)



北海道イーグル株式会社



取締役社長
須賀 敏明

当社は、北海道の道南に位置し内浦湾沿いで、農漁業の盛んな長万部町で事業活動を行っています。特に漁業は、ホタテ養殖が盛んで漁家は当社の重要な顧客でもあります。環境保全活動においては、CO₂ 排出量の削減活動、廃棄物の分別リサイクル活動、工場周辺の環境美化活動を行ってきました。今後も、地域の発展と近隣環境の保護に向け環境保全活動を推進していきます。

[主な製品]

- 工業用メカニカルシール部品
- 航空宇宙機器用シール部品
- ホタテ自動耳吊り機械



コベルコイーグル・マリンエンジニアリング株式会社



取締役社長
吉岡 肇

高砂本社



呉工場

環境保全活動を開始し3年目になり、従業員の意識も向上してきています。昨年末に従業員からの提案で、マイコップ・マイ箸使用による紙コップ・割り箸の廃止を行い、さらに夏場の室内の温度上昇を少しでも抑えられないかの提案から、事務所正面のガラス窓面に朝顔の植樹を実施しました。製品では、海洋汚染防止の観点から、生分解性オイル・専用シール材の開発を行い、実船試験を経て販売を開始しました。呉工場で実施しているプロペラの省エネ研修は、燃費向上効果が認められ、プロペラ修理とともに、高い顧客支持を得ることが出来ました。

[主な製品]

- 船尾管シール装置
- 船尾管軸受け
- 中間軸受け
- プロペラ修理
- Bio Oil ST-77(船尾管用)・TH-100(サイドスラター用)

岡山イーグル株式会社



社長執行役員
黒川 修二

岡山県中西部に位置し、美しい野山にはぐまれたすばらしい環境の中で、環境に配慮したシールおよびバルブ製品を主に生産しております。2007年度の環境保全活動は、ジクロロエチレン・メタンを主体に2008年度全廃に向けた設備検討及び計画的な導入を推進しました。また、職場環境の整備と、福利厚生整備として事務及び厚生棟の新設を行います。さらなるCO₂排出量の削減、リサイクル率の向上等、企業の役割と地域の環境を配慮しながら環境管理活動に取り組んでいます。

[主な製品]

- メカニカルシール
- フローティングシール
- メカトロニクスバルブ製品

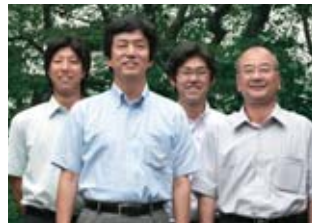
編集後記

EKKグループの「CSR報告書」をお読みいただきありがとうございました。

発行2年目を迎え、今年度は従業員のご家族の方々にも、我々の働いている会社を理解していただきやすいようにと試みました。EKKは部品製造に関する独自の技術基盤として、これまで高品質な製品とサービスの提供を通じた社会貢献を行ってきましたが、社会や環境の状況の変化に伴いステークホルダーの皆様のニーズは多様化しています。これから先、環境や安全

衛生の法律・規制の変化の中で、弊社は社会の一員としてしかるべき対応をとり、それをお伝えしていかなければと考えております。

EKKにとって2回目の発刊であり、環境・社会報告書には、まだまだ不十分な部分があると存じますが、是非「CSR報告書」をお読みになった皆様の率直なご意見・ご感想をいただき、EK Kにおける環境・社会活動の向上を図ってきたいと考えます。





イーグル工業株式会社
〒105-8587 東京都港区芝大門1-12-15 正和ビル
<http://www.ekk.co.jp/>



この報告書は、環境に配慮したグリーンプリンティング認定工場で、FSC認証紙、VOC削減効果の高い「水なし印刷」「W2インキ」を使ってつくりました。